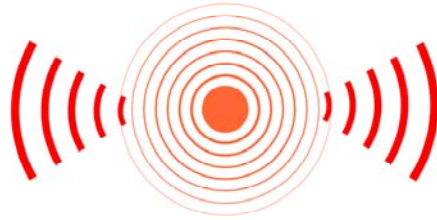
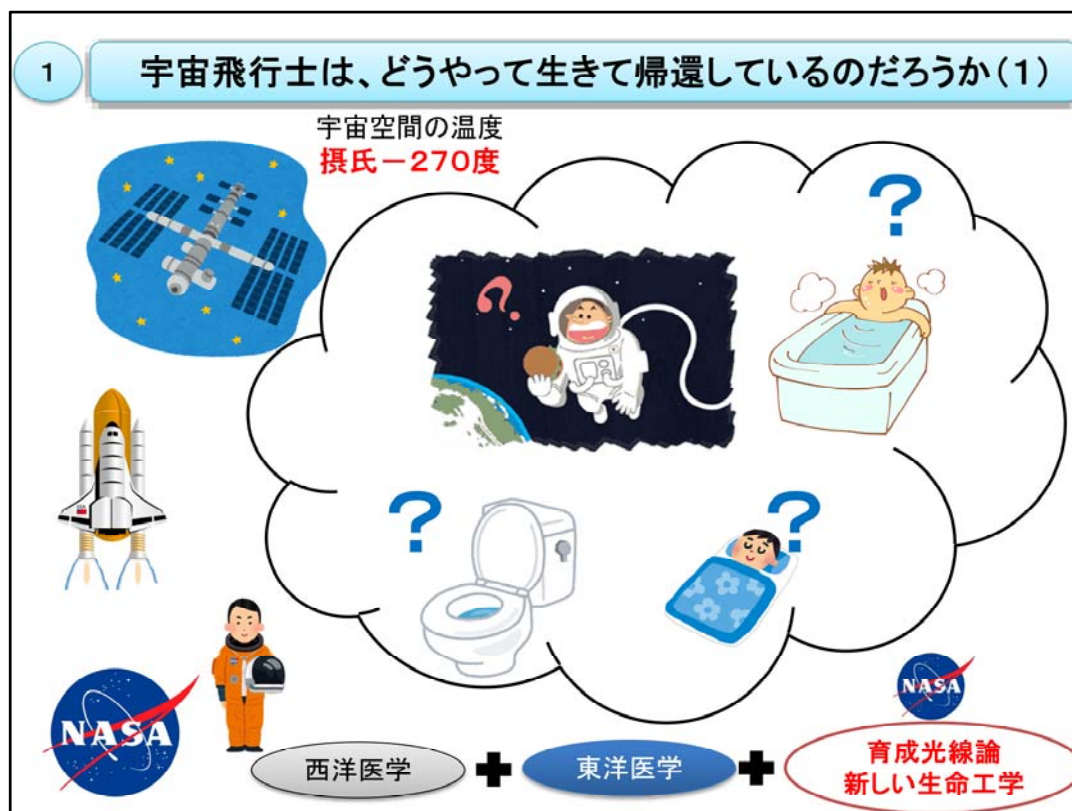


● マジェスティレアス物語 ●



(株)ベストエコロジー販売



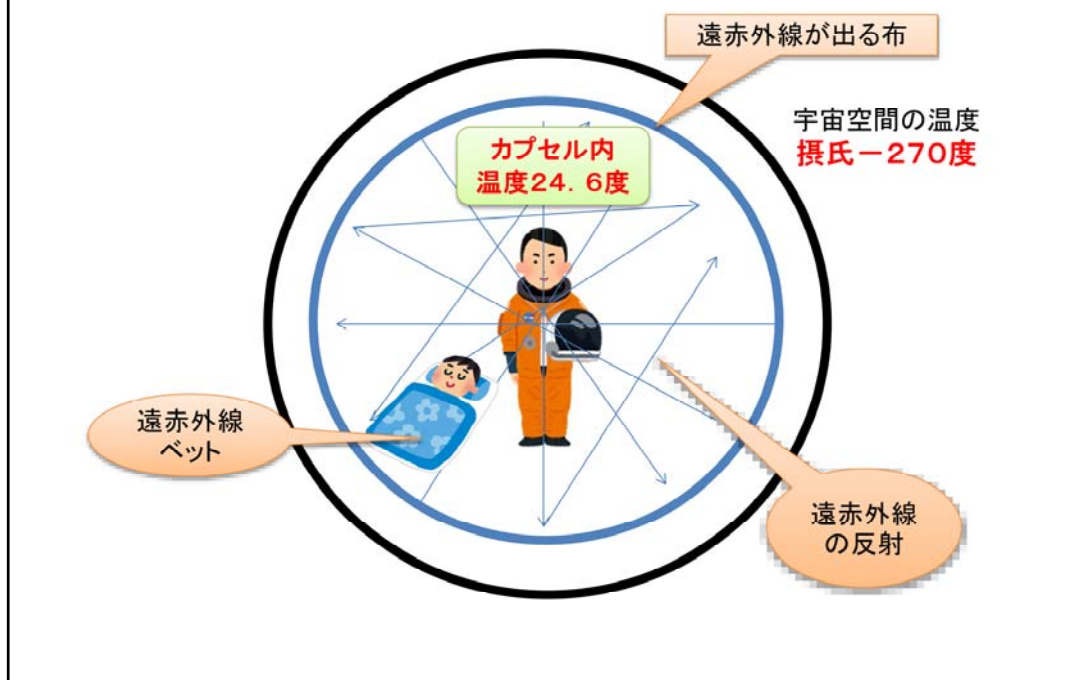
NASAから飛び立った宇宙飛行士が、宇宙ステーションの中で約6ヵ月間の生活を終えて、無事地球に帰還し続けています。一体、無重力の狭い空間の中で、どのようにして生命を維持することができたのでしょうか。食事は、水は、空気は、風呂は、トイレは…次々と知りたいことが発生してきます。

宇宙空間の温度は、絶対温度およそ3K(ケルビン)(摂氏-270℃)であることが分かっています。このような中、どのようにして体温を維持し、無重力の中、血液の流れを維持しているのでしょうか。NASAは西洋医学、東洋医学だけでなく、独自の育成光線論を加えて宇宙飛行士の生命活動に対応していると伝えられています。

現在の日本では、NASAが発表した育成光線理論という新しい生命工学についてはあまり研究されていません。圧倒的に西洋医学による医療研究が推進されているのも一つの原因かもしれません。

2

宇宙飛行士は、どうやって生きて帰還しているのだろうか(2)



宇宙ステーションの中ですが、室内は $9.6\mu\text{m}$ の育成光線が飛び交い室内の温度は 24.6°C に維持されているということです。NASAは、このようにして宇宙飛行士の健康を維持しているものと思われます。

最近、光冷暖といわれる冷暖システムが注目を浴びるようになりました。これは、この宇宙ステーションと同じ要領で温度管理するものです。一昨年、環境大臣賞も受賞しましたが、あくまで省エネとしての受賞でした。なぜなら、日本では育成光線が人間の健康に及ぼす影響等について研究が進んでいないからです。

しかし、この遠赤外線の中にいると健康的に生活できるのは間違いないでしょう。あの過酷な宇宙空間の中で宇宙飛行士が無事に帰還している状況からしても確認できると思います。

3

NASAが発表した育成光線論



人の体を作っている、水とタンパク質
の分子運動は、**9.6 μm の波長**である。(体温**36.5 $^{\circ}\text{C}$** の時)

新しい生命工学

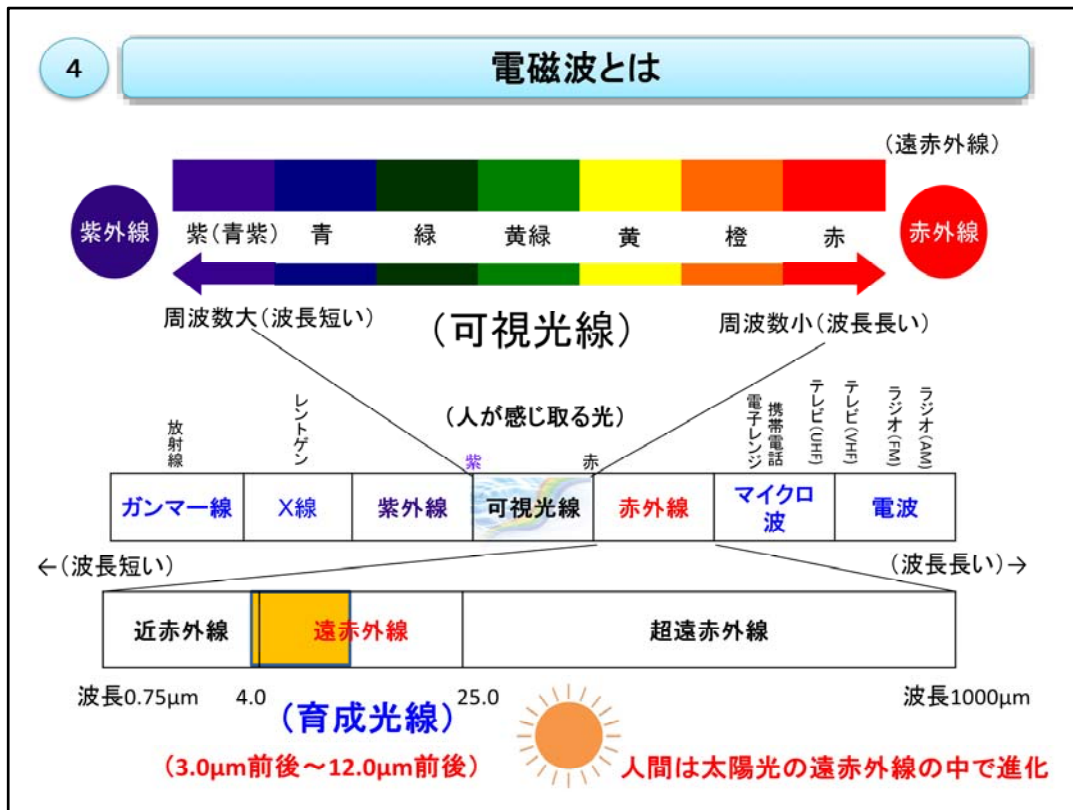


問題点: 波長は簡単に測定できない

NASAは、人の生命活動を分子運動の波長で追究し、発表しています。人の生命を支えている基本の物質は水とタンパク質です。この水とタンパク質の分子運動は、体温**36.5 $^{\circ}\text{C}$** の時「**9.6 μm の波長**である」とNASAは発表しました。

物質の分子運動は、温度(熱エネルギー)によって変化します。人間の平均的な体温は**36.5 $^{\circ}\text{C}$** とされています。病気になって発熱した場合、当然水とタンパク質の分子運動は変化します。結果として、**9.6 μm の波長**とは異なってくることになります。逆に、老化や特別な病気によって、体温が**36.5 $^{\circ}\text{C}$** より低下することがあります。この時も、水やタンパク質の分子運動が変化しているはずで、当然、その波長も変化してきます。

よく考えてみると、人の生命活動を「分子運動の波長」で表わすことは最も科学的な方法ということが出来ます。ただ難しいのは、人が発散している分子運動の波長を簡単に測定できないということです。NASAの発表が、日本の科学者たちにすんなり受け止められていない最大の理由かもしれません。



電磁波は、波長(波の長さ)によって種類分けされています。最も波長の短いものをガンマー線と呼んでいます。波長が短いため、物質を通過して変化を与える強い力を持っています。ガンマー線は通常放射線とも呼ばれ、生命体に様々な障害を与えることが分っています。ガンマー線より少し波長が長いものをX線と呼んでいます。レントゲン写真に利用されていますが、やはり生命体に障害を与えます。

次に波長が長いのが紫外線です。紫外線も、ある程度生命体に障害を与えることが分っています。人間が進化の過程で色として感じ取るようになった電磁波が可視光線です。人間は、可視光線の電磁波の波長を、大きく7色に分けて感じ取っているとされています。可視光線より波長の長い部分を赤外線と呼んでいます。この赤外線は大きく三つの部分に分けられています。

人の生命活動と最も深い関係にあるのが遠赤外線です。通常遠赤外線は4 μm~25 μmの波長帯とされています。したがって、人が発散している9.6 μmの電磁波(波長)は遠赤外線という事になります。

遠赤外線は体に良いとされて来ましたが、生命工学の理論として発表(NASA)されたのは初めてです。地球上の生命は太陽の光によって支えられています。この太陽光の中で、地球に届く遠赤外線が3.0 μm前後~12 μm前後であるとNASAは発表しています。この遠赤外線に対応して人は進化してきており、生命活性の基本になっているというのです。したがって、特別に「育成光線」と呼ぶとしています。

私たちは、波長の長いマイクロ波や電波を電子レンジ、携帯電話、テレビ、ラジオなどで利用しています。NASAの育成光線理論を受け止めた場合、マイクロ波や電波の波長は「人の生命活動になじみにくい」ということとなります。

現在の日本の公式な見解では、マイクロ波や電波は「特に問題なし」とされています。しかし、一部の人はマイクロ波や電波による健康障害を訴えています。これは、日本では電磁波が人の健康に及ぼす影響について明らかにされておらず、それに基づく法的整備が遅れているといわざるを得ません。今後は、研究によって電磁波が人体に及ぼす影響等が解明されていくでしょう。

5

波長とは



波長 波が1回振動した時の距離

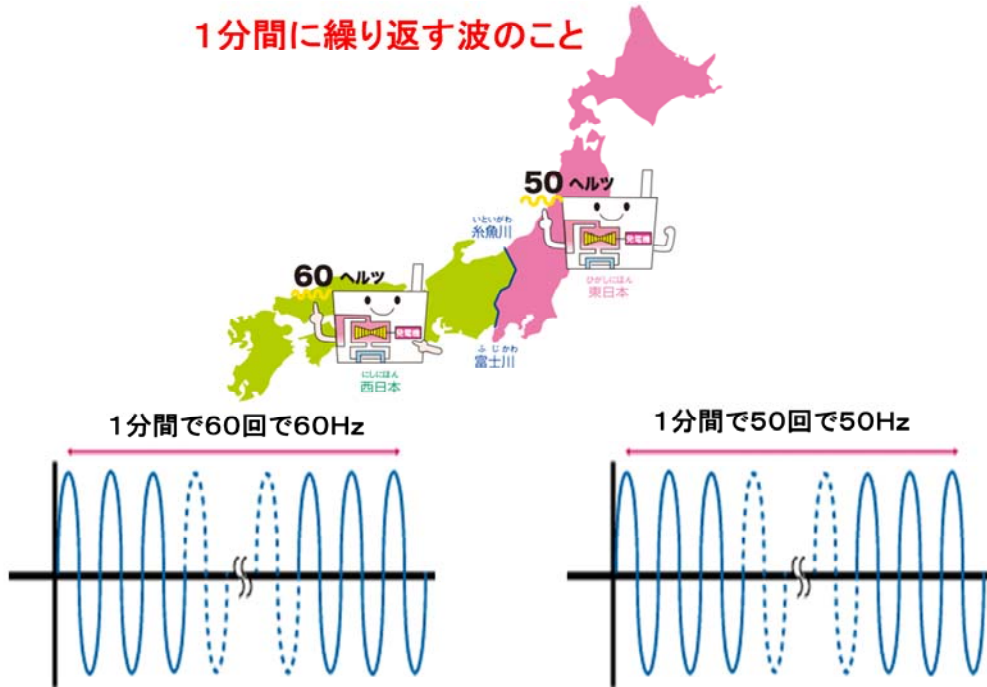


ここで、電磁波に関する基礎的なことをおさらいしておきましょう。ある場所で何らかの物理量が変動すると、その変動がその場所で留まらず、空間を伝搬していきます。この現象は波とよばれています。たとえば、静止している池の水の中に石を投げいれると、波紋が広がっていく、これは、水に石が落ちたことにより物理量が変動し、水の波紋が広がっていきます。

このような現象が空間の中で電磁波として伝わっています。

波が1回振動したときの距離を「波長」と言います。

1分間に繰り返す波のこと



「周波数」とは、1秒間に繰り返す波の数のことを言います。送電線などに流れる電流は、1秒間に60回「+」と「-」が入れ替わります。これを図で見ると1秒間に60回の波ができることとなります。周波数の単位には「Hz(ヘルツ)」を使いますので、このような場合、周波数は60Hzと言います。

7

波長と周波数の関係

【関係式】

$$\text{波長}(\mu\text{m}) \times \text{周波数}(\text{HZ}) = \text{光の速さ}(\text{電磁波の速さ})$$

参 光の速さは30万km/秒 (300000km/秒 = $3 \times 10^{14} \mu\text{m}/\text{秒}$)

参 (1 μm マイクロメートル) = 10^{-6}m メートル

育成光線と周波数の関係を式で表すと 9.6 μm を約10 μm の波長として試算

- ① 関係式は $10(\mu\text{m}) \times \text{周波数} = 3 \times 10^{14}(\mu\text{m})$
- ② 育成光線の周波数は $3 \times 10^{14} \div 10 = 10^{13}(\text{HZ})$
- ③ 9.6 μm は、約 10^{13} ヘルツ(HZ)に当たることになる。

9. 6 μm の波長の場合 1秒間に約10兆回の波を繰り返している

波長と周波数の関係について、関係式で表せば

波長(μm) \times 周波数(HZ) = 光の速さ、(電磁波の速さ)

参光の速さは、30万km/秒(300000km/秒 = $3 \times 10^{14} \mu\text{m}/\text{秒}$)

参(1 μm マイクロメートル = 10^{-6}m メートル)

育成光線と周波数の関係を数式で表すと 9.6 μm を約10 μm の波長として試算

関係式は $10(\mu\text{m}) \times \text{周波数} = 3 \times 10^{14}(\mu\text{m})$

育成光線の周波数は $3 \times 10^{14} \div 10 = 10^{13}(\text{HZ})$

9.6 μm は、約 10^{13} ヘルツ(HZ)に当たることになる。

NASAが発表した9.6 μm の波長の場合、1秒間に約10兆回の波を繰り返していることになる。

参【テラヘルツ】

①テラヘルツ(10^{12} ヘルツ)と波長の関係は

②波長 $\times 10^{12} = 3 \times 10^{14}(\mu\text{m})$

③テラヘルツは 波長 = $3 \times 10^2(\mu\text{m}) = 300(\mu\text{m})$

④テラヘルツは、波長300 μm の電磁波であり、育成光線により低周波である。学問上の分類では遠赤外線ではなく、超遠赤外線に分類され、マイクロ波に近いことになる。

8

人が発散している電磁波(9.6 μm)全身から9.6 μm の波長(電磁波)を発散

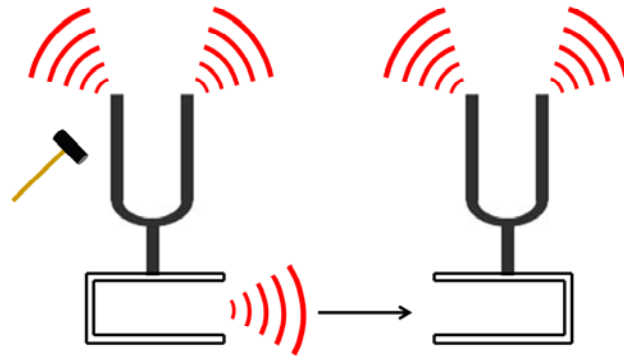
東洋医学の「気」は、NASAの波長論に通じる

東洋医学では、「気」ということが大切にされています。中国の学者から「気とは何か」を学んだ結果、NASAの波長論に通じることが分かってきました。人が生命を維持している時には、水やタンパク質の分子運動によって9.6 μm の波長の波を放出していることとなります。

この波は、エネルギーとして伝わっていくはずですが、このエネルギー現象を電磁波と呼んでいます。専門的には、電界、磁界が繰り返して広がっていく現象のため電磁波と呼ばれています。

ということは、人は常に9.6 μm の波長の電磁波を発散しながら、生命活動を維持していることとなります。人の生命活動があるということは、平均36.5 $^{\circ}\text{C}$ の体温が保たれていることです。この時の水やタンパク質の分子運動が電磁波(波長)になって外に放出していると考えられます。東洋医学での「気」と同じ考え方が可能と推論できます。

- 同じ波長の波が来ると、自然現象として共振したり共鳴したりする。



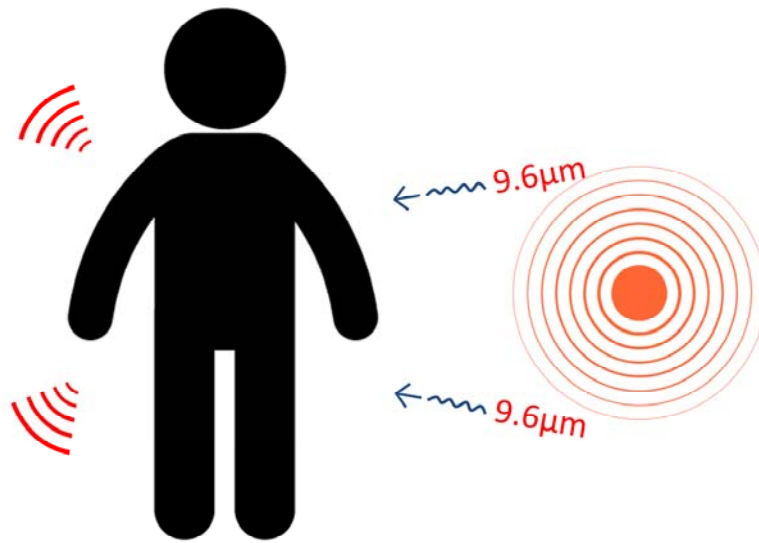
<音叉(おんさ)の実験>

自然界の物質を作っている原子や分子は、常に振動しています。この振動は、波となって放射されています。

同じ波長(周波数)の波がやってくると、その波のエネルギーを受けて、自らも振動することが起こります。これを共振現象と呼んでいます。

こうした自然現象は、音叉の実験で確かめることができます。同じ波長(周波数)の音叉を離れたまま置いて、一方をたたいて鳴らします。すると離れて置いた音叉が自然に鳴りだします。

NASAが、人の体を作っている水とタンパク質が放出している波長を追求したのはこのためです。人の体に同じ波長のものを作用させると、共振現象によって生命の活性化が起きると考えられるからです。宇宙飛行士の健康について、NASAはほとんど発表していません。しかし、多くの研究者は、共振現象の中で宇宙生活していると考えています。



(共振して活性化)

人の体が、 $9.6\ \mu\text{m}$ の波長の電磁波で生命を維持しているとするなら、外部から $9.6\ \mu\text{m}$ の波長の電磁波を作用すればよいということになります。共振現象によって刺激を受け、生命が活性化すると考えられるからです。

人の体の共振反応(2)

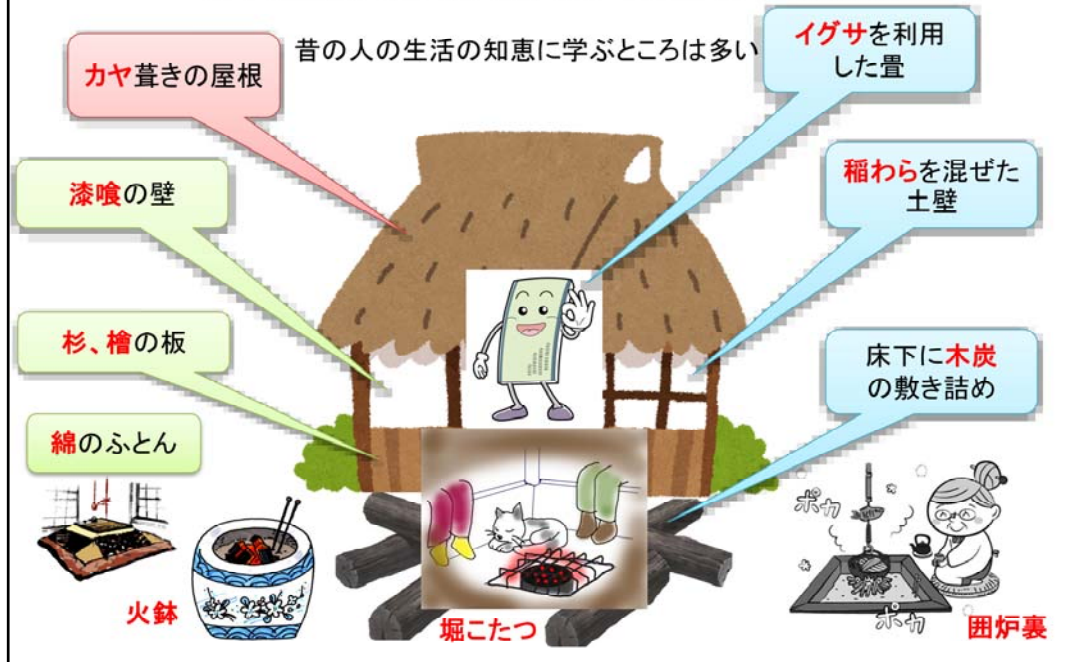


こうした、共振現象の原理から考えると高周波や低周波は人の体にとって好ましい電磁波ではないということになります。場合によっては、拒絶反応を示すことが考えられます。

ガンマー線(放射線)やX線の高周波が、人体に有害であることは証明されています。また、携帯電話を使用し続けると「頭が痛くなったり」「気分が悪くなる」場合があります。9.6 μm の波長を求める体に対して、1,000 μm 以上の波長が作用し続けることは「生命維持」に混乱を与える可能性が生じると考えられます。

したがって、頭が痛くなったり、気分が悪くなるのは身体の「拒絶反応」の一つと考えることができます。

昔の日本家屋は遠赤外線を発する材料で造られていた

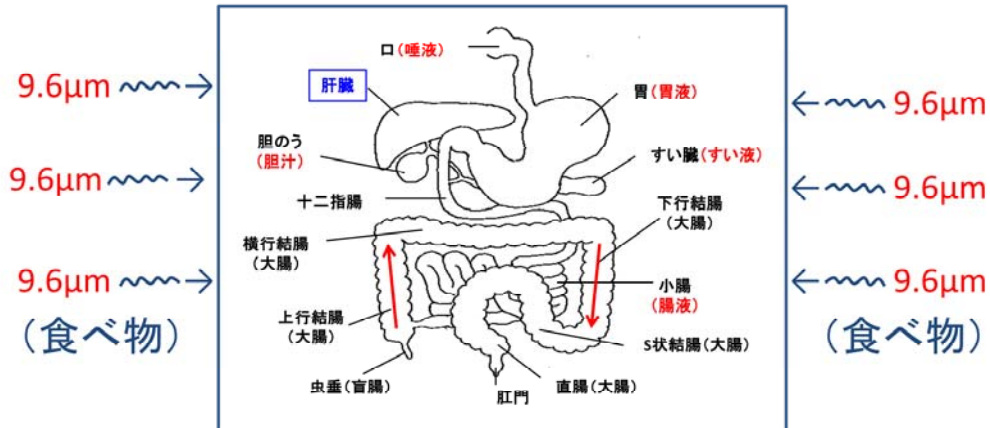


昔の人は、家を造るとき育成光線(3.0 μm ~12.0 μm)を放出している材料を使っていました。畳(い草)、稲わら、杉、桧などの木材、土や海藻を練った白壁、屋根に使用する茅(かや)などは育成光線を発散していることが分かっています。

昔の人が、こうしたことをどのようにして感じ取っていたのかについてはよく分っていません。昔の人の生活の知恵に改めて学ぶ必要がありそうです。

現代社会は、合成化学物質や電子機器など育成光線とは異なる高周波、低周波の中での生活が続くようになっています。健康長寿社会に向けて、大きな課題になっていると考えられます。

- 人の内臓は、主に平滑筋できている。
- 人の内臓の分子は、 $9.6\mu\text{m}$ の波長で振動している



$9.6\mu\text{m}$ の波長を持つ食べ物が最も効果的

人の生命活動を支える中心的役割を果たしているのが内臓です。中でも、食べ物と直接関係しているのが消化器官です。この消化器官は、主に平滑筋と呼ばれる筋肉で構成されています。心臓や肺の筋肉も、平滑筋によって構成されています。平滑筋を構成しているタンパク質の分子運動が $9.6\mu\text{m}$ で振動しているとするなら、人の食べ物に対して一つの条件が設定されることになります。それは、できるだけ $9.6\mu\text{m}$ の波長(電磁波)を放射している食べ物が好都合ということです。共振現象によって、平滑筋の活動が活性化すると考えることができるからです。

こうした考え方は、NASAが育成光線理論を発表するまでほとんど取り上げられることはありませんでした。生命の活性化を「食」の立場で考えるとき、NASAの育成光線理論は大変重要であると受け止めることができます。

健康食品やサプリメントを研究開発するとき、単一の機能性物質を追究していくのも一つの方法です。しかし、食を共振現象の立場で受け止めると、常に総合的に判断していくことが求められてきます。すべての食は、人の内臓(身体)と共振現象の関係になっている必要があります。食と食、食と人の内臓(身体)は相互に共振し合って、融合的に生命の活性を生み出していると考えることができます。

こうした考え方に立つなら、健康食品は融合食品として受け止める必要が生じてきます。おそらく、NASAが開発している宇宙食は、融合食品として追究され完成しているのではないのでしょうか。

☆ 血液の流れ(動脈→静脈の循環システム)



☆ 生体電流の流れ(神経伝達システム)



☆ リンパの流れ(免疫システム)



人の生命活動は大きく三つの流れによって支えられています。一つは血液の流れです。心臓から大動脈に送られた血液は、全身を循環して静脈を通して再び心臓に戻ってきます。血液の流れは、生命活動に必要な酸素や栄養分を運ぶ重要な役割を果たしています。

もう一つは、生体電流の流れです。全身に分布している神経の中を電子(e-)が流れることによって、人の神経伝達システムが成り立っています。全身に分布している神経細胞の中を電子(e-)が移動することによって、様々な情報が脳に伝達されているとイメージすればよいでしょう。

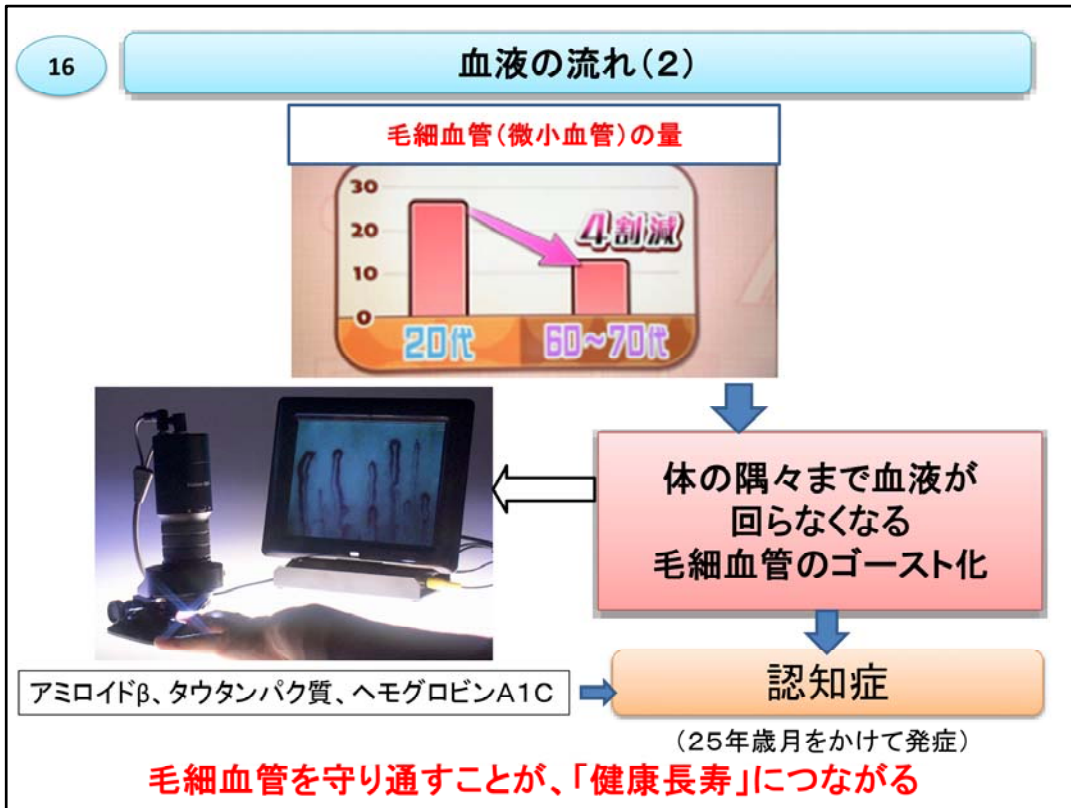
神経細胞のことを専門的にはニューロンと呼んでいます。このニューロン(神経細胞)とニューロンのつなぎ目は小さなすき間になっていることが分かってきました。この小さなすき間(空間)の組織をシナプスと呼んでいます。シナプスには、送られてきた電子(e-)の流れである電気信号を、次のニューロン(神経細胞)に伝達する特別な仕組みが存在しています。それは、セロトニン、ドーパミン、アドレナリンなどの体内化学物質によって受け渡しをするという仕組みです。人の生命活動は、こうした神経伝達システムによっても支えられているのです。

三つ目の流れがリンパの流れです。人の体液は重力によって足の方へ集まってきます。同時に、血管からも滲み出て全身に分布しています。こうした体液はリンパ液として回収される仕組みになっているのです。これがリンパの流れです。

リンパの流れはリンパ管といって、血管とは別の組織を流れるようになっています。リンパ管を流れる液体をリンパ液と呼んでいます。リンパ液は、最終的に静脈に集まり、再び血液の流れになっていく仕組みになっています。リンパ液の中に存在している特別な細胞がリンパ球と呼ばれる免疫細胞です。

人の免疫を支える中心的な役割を果たしているのがリンパ球と呼ばれる免疫細胞たちです。免疫細胞については後で詳しく説明することにしましょう。

こうして、人の生命活動は大きく三つの流れによって支えられているのです。健康長寿を実現するには、この三つの流れを常に順調にすることが大切です。入浴や、温泉の利用、岩盤浴などは、この三つの流れを良好にする健康方法として古くから知られています。



中でも脳内の微小血管と認知症の関係が指摘されています。脳内の微小血管が破れて小さな染みができた場合、認知症の原因の一つと推測されているのです。微小血管の破れはなかなか見つけることができません。最近の研究では、認知症は約25年間の経過を経て発病するとされています。

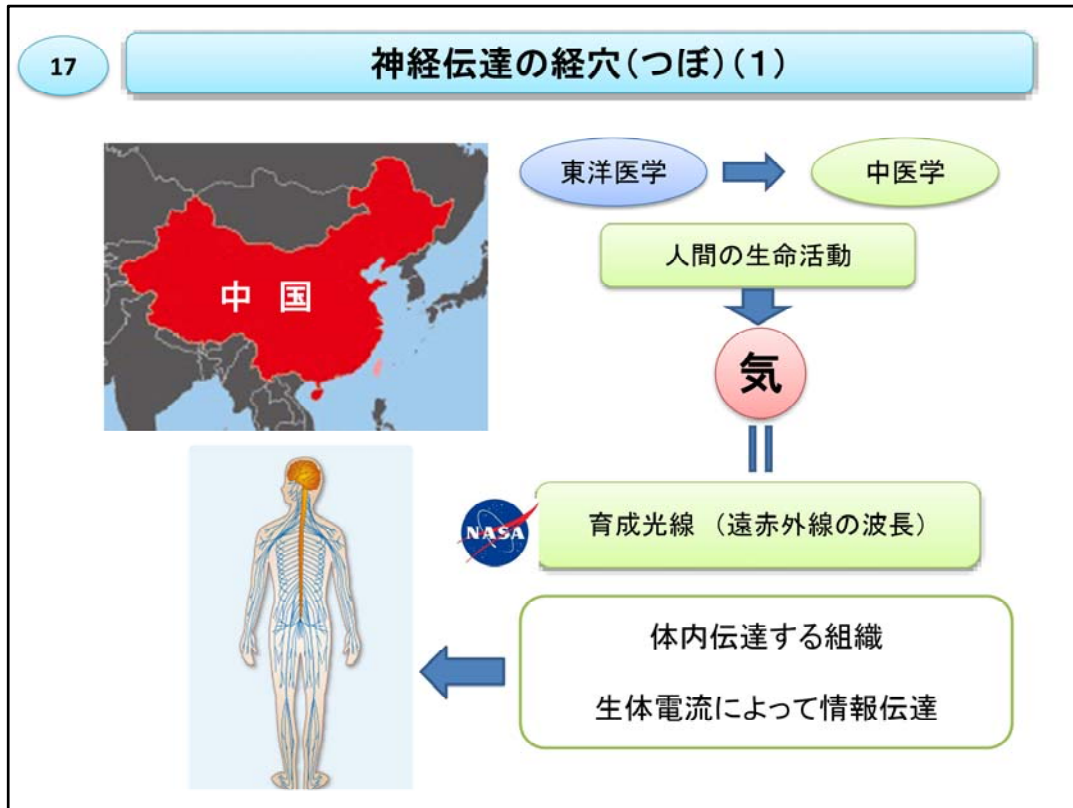
その間、アミロイドβ、ヘモグロビンA1c(血糖)、微小血管出血、などが進行の原因として取り上げられ、短鎖脂肪酸、IgAなどの腸内環境が予防(進行を止める)に役立つと研究報告されています。

人の微小血管は再生されます。手の指を怪我した場合、微小血管が破れ出血します。しかし、やがて怪我が治ると同時に微小血管が再生され、正常な状態になることは誰でも経験していることでしょう。

血液の流れをよくして、微小血管を守り通すことは、そのまま「健康長寿」につながって来ることになります。老化を予防したり、病気の予防や改善に取り組むとき、いかにして微小血管を守り通すかということが重要な課題になってきます。

『マジェスティアス』は、血流をよくし、全身の微小血管の保護と再生を期待して研究を続けてきました。

NASAが発表した育成光線理論を人の体の共振現象として受け止め、20年以上に渡って研究して完成したのが『マジェスティアス』です。



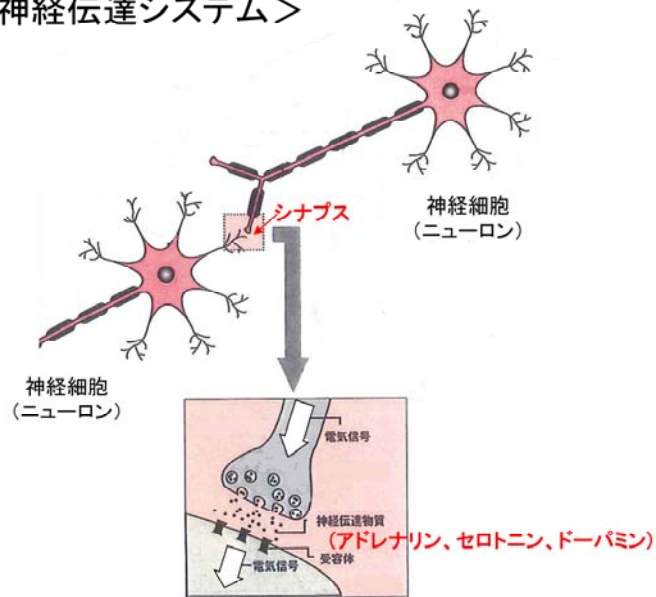
古くから中国では独自の医学が発展していました。現在では東洋医学として確立され、中医学とも呼ばれるようになってきました。そこで、直接中国に行って中医学について学ぶことにしました。一口に中医学といっても、様々な方法が存在していることが分かりました。

例えば、人体の経穴(ツボ)についても、医学者、研究者、治療者によって異なった表現や視点が存在しています。しかし、共通していたことは、人の生命活動を「気」として受け止めていることです。元気、精気、覇気(はき)、気力などは中医学を語源にしているということです。

私たちは、中医学(東洋医学)の「気」を、NASAが発表した育成光線理論と重ねて受け止め、研究を進めてきました。西洋医学ではエネルギー放射と表現してもよいと思います。

こうした人の生命活動の「気」、「育成光線」、「エネルギー放射」を体内伝達する組織が神経伝達の仕組みです。すでに説明したように、人の全身に分布している神経は生体電流(e-)によって情報伝達されています。

<神経伝達システム>



<資料出展>

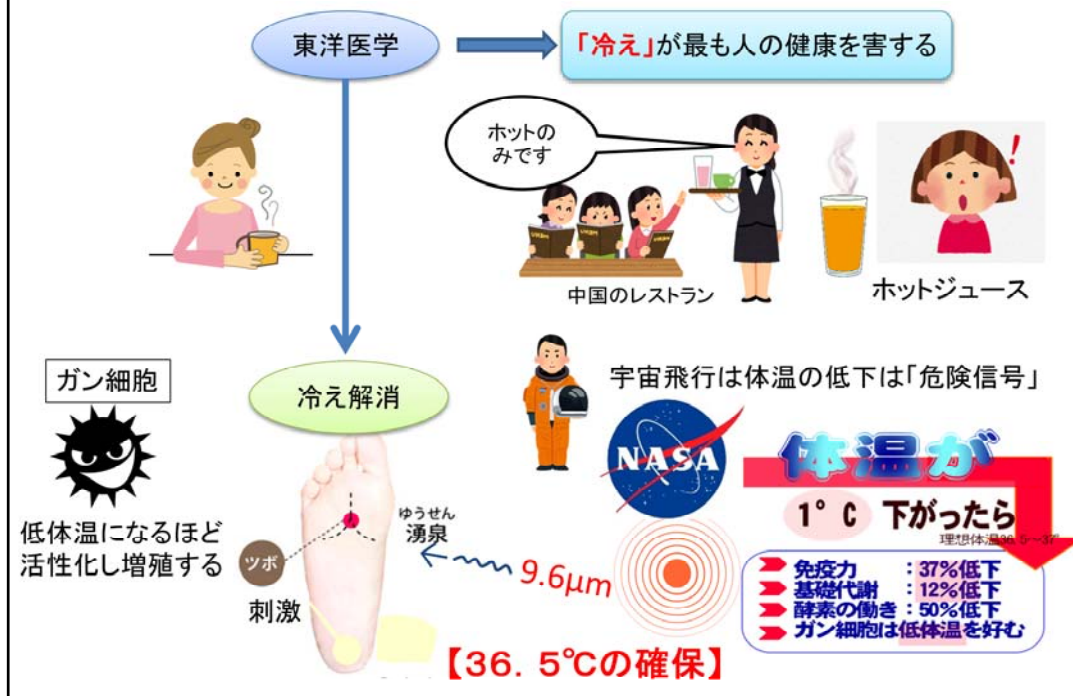
『脳の不思議』

高橋明彦監修 日本文芸社発行

神経と神経の小さな空間(シナプス)をつないでいるのが、アドレナリン、ドーパミン、セロトニンなどの体内化学物質です。こうした体内化学物質は、人の精神活動にも深く関係していることが分かっています。特に、セロトニンは人の精神活動を安定させる重要な役割を果しているとされています。

東洋医学での経穴(ツボ)への刺激、西洋医学でのセロトニン分泌は、今後更に新しい生命工学として追究されていくでしょう。NASAの育成光線理論を含め、「生命の神秘」は、科学として解明されつつあります。

人の神経組織は、ただ痛いとか熱いなどを感じるだけでなく、生命活動全体を支える重要な役割を果しているのです。



人は病気になると発熱します。これは、体温を上げて体内の代謝酵素を活性化して病気を改善しようとする自然の仕組みです。最近では、体温を上げることがそのまま健康長寿につながってくると考えられています。

東洋医学では、「冷え」が最も人の健康を害するとされています。中医学を学ぶため中国に行ったとき、レストラン(食堂)で出される水やジュース類は全て温かいものばかりに直面し、びっくりしました。冷たい水、冷たいジュース、冷たい食事は人の生命活動を不活発にしてしまいます。

人にとって最もやっかいながん細胞は、低体温になるほど活性化して増殖することが分かっています。無重力の中で生活する宇宙飛行士にとって、体温の低下(冷え)は、「危険信号」であると伝えられたことがありました。育成光線理論が体温36.5 $^{\circ}$ Cを基準にしている背景にもなっています。

多くの場合、冷えは足の指先から起ってきます。血流が心臓より最も遠いことも原因になっています。もう一つは、足の指先に向って抹消神経が細かく分布していることも原因とされています。

冷えの解消方法として足の経穴(ツボ)を刺激することが行われています。抹消神経を刺激して冷えを解消する方法です。NASAの育成光線理論では、9.6 μ mの波長を放出する物を作用させて、共振現象を起させることが考えられます。抹消神経が刺激を受けて、平均体温とされる36.5 $^{\circ}$ Cを保つことを狙った方法です。

人は進化の過程で二足歩行を身につけました。そして、足先まで抹消神経を発達させています。この抹消神経を常に刺激する一つの方法として「マジスティレラス」を研究開発しました。使用することによって、体温の上昇変化が期待されます。基礎体温の上昇は、健康長寿を実現する重要な要素になります。例え0.1 $^{\circ}$ Cの体温上昇であっても、体内の基礎代謝に与える影響は大きいものがあります。

日常的な筋肉運動と併用すれば、より効果的と考えられます。足の指先を冷やさないことが健康長寿につながる第1歩と受け止めておきましょう。



足の裏には、東洋医学での経穴(ツボ)が集中しているとされています。日本では、竹を割って置き、足の裏の土踏まずを刺激する健康方法が存在しています。土踏まずに刺激を与えるのは「三つの流れ」の起点になっていると考えられるからです。

1. 血液の流れの起点
2. 生体電流の流れの起点(電子e⁻の流れ)
3. リンパの流れの起点

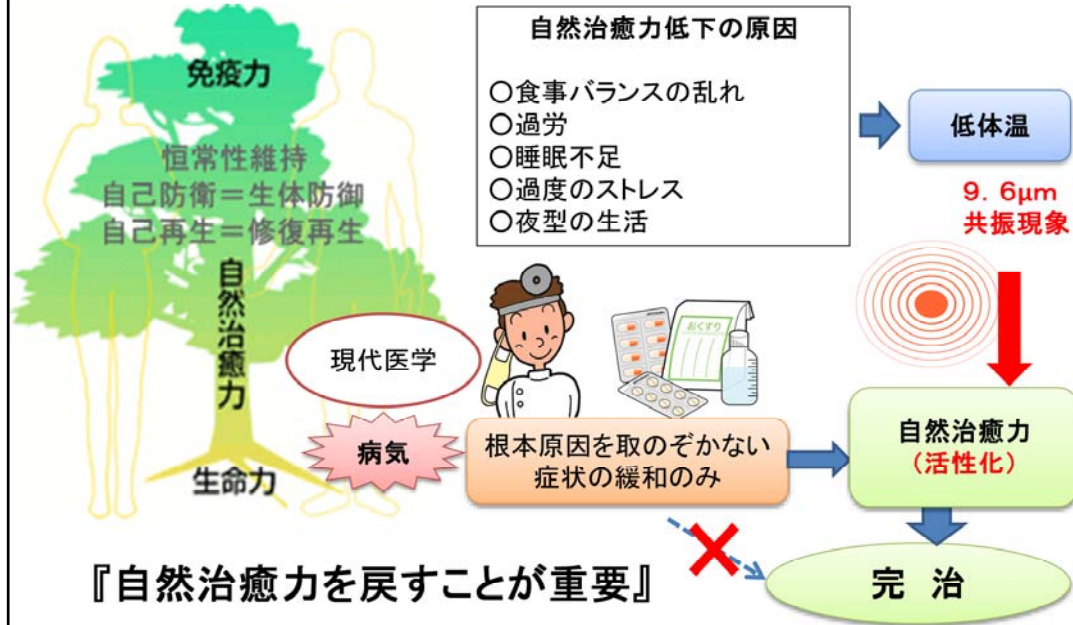
タイ式マッサージでは、足の裏の起点(経穴)に強い刺激を与える方法が存在しています。悲鳴を上げるほどの痛さを感じることもあるようです。伝統的な健康方法として知られています。そこで、この起点に強い育成光線(9.6 μ mレベルの波長)を作用させることに取り組みました。共振現象によって三つの流れが同時に活性化すると考えられるからです。

9.6 μ mの波長は遠赤外線領域です。そこで、遠赤外線を放出する岩石の研究に取り組みました。

参考になったのはハワイの溶岩大地です。ハワイ島では、現在も粘性溶岩が噴出し続けています。この粘性溶岩が冷えた溶岩大地では、遠赤外線が放出されており、パワースポットとして多くの人が住みついています。日本列島は、火山国です。地下のマグマが冷えて花崗岩になり、各地で産出されています。この花崗岩に地圧が加わってバラバラに砕けた地層が存在しています。破碎帯と呼ばれる地層です。破碎帯の花崗岩は、ハワイ島の溶岩大地より遠赤外線の放出が強いことが分かりました。

日本各地の破碎帯を現地調査し、遠赤外線(育成光線)の放出が特に強い岩石を確保することができました。こうした岩石は、人がほとんど立入っていない場所に存在しており、確保し製品化するのに約20年の歳月を要しました。特に、本来持っている岩石の力を更にパワーアップするため高温処理をしています。大変難しい「匠の技」レベルの技術となっています。「マジスティラス(不老皇石)」は、NASAの育成光線理論を受け止めて、特別な岩石を特別な技術で処理したオンリーワン商品です。試作による仮データでは、使用された皆さんの基礎体温が上昇しています。今後、様々な利用方法を検討し、健康長寿社会の実現に貢献したいと計画しています。

★ 人間は本来、**自然治癒力**が備わっている



人間の体には、病気にかかったり、かかりそうになったとき、それらを自らの力で治したり防ごうとする力が備わっています。自然治癒力は、人間が健康を維持しようとする働きで生まれながらに持っているものです。

野生の動物たちは本能的にそれを知っているのか、体の具合が悪くなったときには、体に良い波長が出た大地に移動して、土にまみれたり、岩石の上で寝そべったりして体力の回復を図る等の行動が見られます。本来は野生動物のように自然に治らないといけないのですが、現代はこの自然治癒力を引き出すことが、なかなか出来なくなってきているのです。

自然治癒力の低下の原因は、食事バランスの乱れ、過労、睡眠不足、過度のストレス、夜型の生活などが考えられます。それが元で低体温の人が増加し、人間本来の36.5℃の体温が維持できなくなっていると考えられます。すなわち、NASAが言う人間の生体(タンパク質と水)が36.5℃の時に9.6μmの波長が発散されていないこととなります。

なぜ、「自然治癒力」が大事なのでしょうか。それは、現代医学がしている「治療」は、そのほとんどが根本原因を取り除くことではなく、現れている症状を緩和することに過ぎないからです。症状を一時的にとったり、抑えたりするのは薬の力です。最後は人間本来の自然治癒力がなければ完治しないのです。

このような視点から、どうしたら人間と同じ波長(9.6μm)を発する物ができるか。研究の視点はそこにありました。それが出来上れば、共振現象により人間本来の波長に戻すことができ、生命活動の活性化を図ることが出来、人間本来の自然治癒力を戻すことができるからです。

23

皇帝(マジェスティ)たちが求めた貴重(レアス)な宝石類

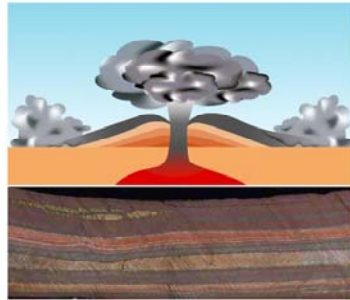


中国の始皇帝が、不老長寿を願って薬(漢方)や岩石の力を追い求めた話は有名です。特に翡翠(ヒスイ)や水晶は、「気」を高め、生命力を活性化する岩石(宝石)として愛用していたことが知られています。

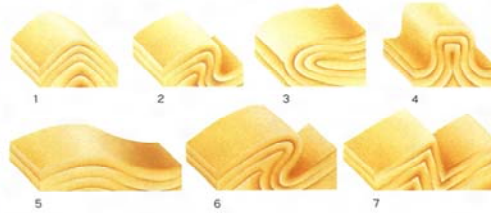
また、古代ローマ帝国では、人の生命は「霊」によって支えられているという考え方が存在していました。「霊」を守る鉱物の代表が金(黄金)であり、ルビーやサファイヤなどの宝石類も霊を守る力があると考えられていました。したがって、歴代の皇帝たちは、金や宝石類を不老長寿の守り神として愛用したとされています。

このように、先人たちは自然の力(大地の力)を本能的または生活の知恵として心得ていたかもしれません。現代でも、各種の宝石類がパワーストーンとして重宝されているのが現状です。

3億年前の破砕帯花崗岩

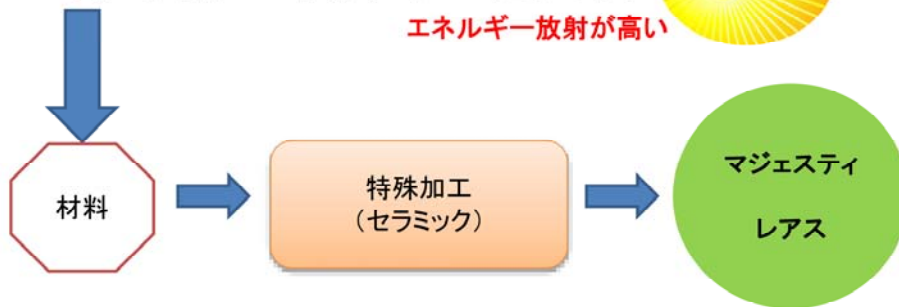


数々の地殻変動（熱、高圧縮）



3億年前の破砕帯 花崗岩

エネルギー放射が高い



歴史上の皇帝たちが、不老長寿を求め愛用した岩石(宝石)は、長い地球の歴史の中で強力な地圧と高温の地熱によって造り出されたものです。特に、1000℃以上の地熱を何度も受けてゆっくりと冷えて固まった岩石は、エネルギー放射が強くなっています。

火山国日本では、全国各地で火山岩が産出されます。この火山岩の中で、地熱や地圧で独自の変化したものが花崗岩です。マジスティレアスの原材料として使用している花崗岩は、約3億年前の地層から確保しています。しかも、地殻変動が激しかった破砕帯という特別エネルギー放射が強い地層から採取しています。

これらの採取した岩石と各種の材料を混合し、特別な要領で焼き上げることによって完成しています。マジスティレアスの発する波長は、生体が発する最適な波長(9.6 μm)に近く、現在、岩盤浴等で使用されている自然の岩石をはるかに上回っていることが確認されています。

遠赤外線利用と育成光線の違い(1)

エアコン



エアコンは空気を暖めるのみ
体は芯から暖まらない。



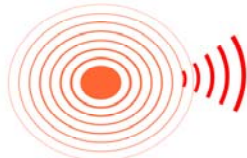
遠赤外線暖房器具



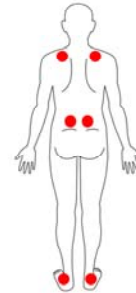
人間の皮膚の表面部分に細胞の振動を起こす。
暖かさがエアコンに比べ長続きする。

波長 〇〇~3.0 μ m程度?

育成光線



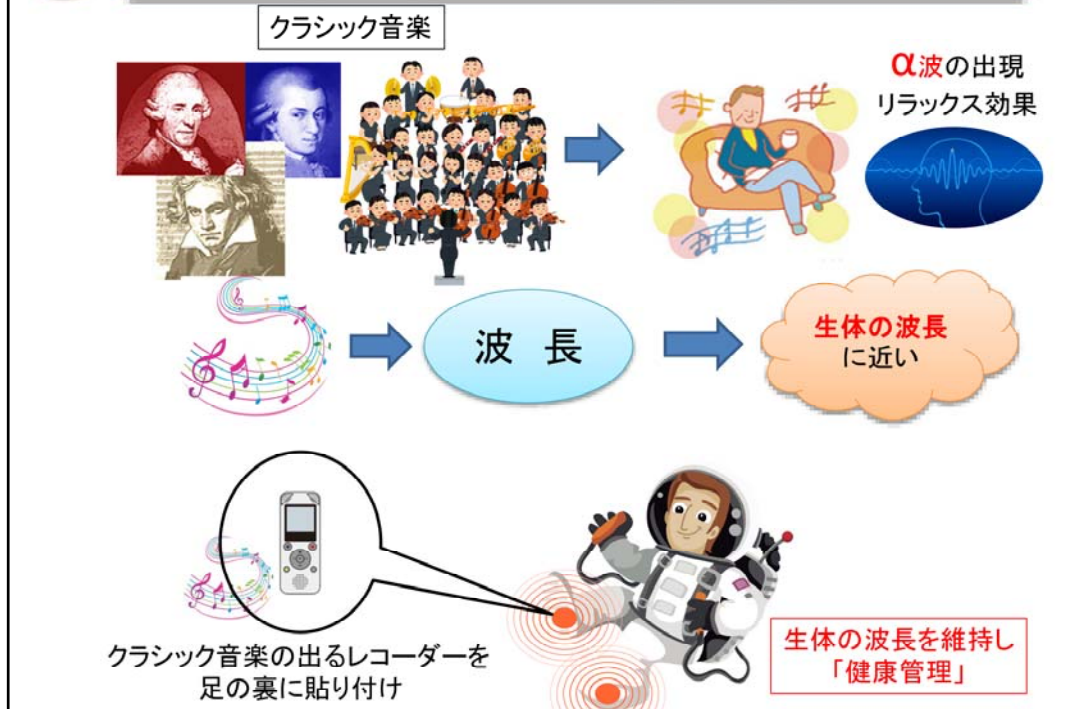
・人間の生命活動の活性化
・基礎体温の上昇・維持(36.5 $^{\circ}$ C)
・体の深部の細胞を共振させて
芯から体が温まる。

生体の波長 9.6 μ m程度

最近、遠赤外線を謳い文句にいろいろな製品が販売されています。特に暖房に関しては遠赤外線ヒーターと呼ばれる暖房器具や、遠赤外線の下着、靴下といった衣類も販売されています。これらは遠赤外線領域の波長の発しているものから、そうでないものまで存在するかもしれません。ビジネストークにより、遠赤外線と銘打った商品であれば、すべて体によく、暖房効果があるように錯覚するので、注意する必要があります。

たしかに遠赤外線領域の波長が出ていれば遠赤外線の商品と言ってもよい間違いではありません。しかし、遠赤外線イコールNASAが発表した育成光線でその効果が十分出ているわけではありません。NASAですら9.6 μ mの波長が生体の波長と認識しながら、その波長を出す物体がなく、当初はクラシック音楽が録音してあるレコーダーを足の裏に貼り付けて宇宙飛行飛行士の健康を管理したと聞いています。このように、育成光線の9.6 μ mの波長を出す物を開発するのは至難の業なのです。

遠赤外線利用と育成光線の違い(2)



それではなぜ、レコーダーを足の裏に付けたのでしょうか。クラシック音楽を聴くと体がリラックスするといわれておりますが、これは音楽の波長により、脳波にα波が出現し副交感神経の働きが良くなり、体が休まるのです。NASAは音楽波長による効果を狙ったのです。

通常のエアコン等の暖房器具は空気を暖めていますが体の内部の細胞に振動を与えることはありません。

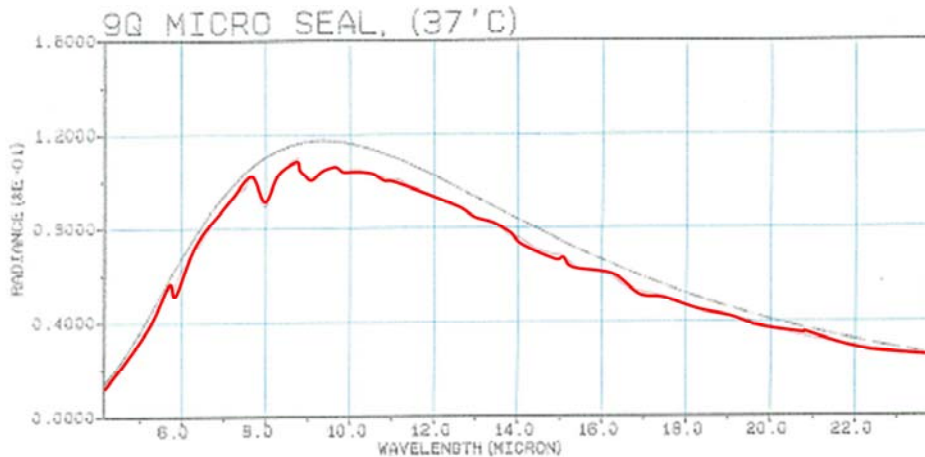
遠赤外線暖房器具は、体の皮膚部分の細胞に振動を起こし体を温めるので、通常暖房より体が温かく冷めにくい暖房となります。

しかし、育成光線は体の全体に共振現象を起こし、温めるのみならず、基礎体温の向上にまで及んでおり、遠赤外線利用の暖房器具等とは大きく違うことです。

測定:遠赤外線応用研究会

<平均放射率**91.25%**>

(育成光線放出)



育成光線の放射は、遠赤外線応用研究会で測定してもらう(依頼)ことが可能です。「マジスティレアス」については、現在、健康機器認可の申請と特許申請を計画しているため、非公開にさせて頂いています。

参考までに「マジスティレアス」と同じ理論で研究開発したシールの測定結果を紹介しておきます。振幅は「マジスティレアス」より小さい為、パワーダウンしていますが、生体反応を科学的に確認することができます。

平均体温36.5°Cに近い37°Cの時、シールから放射する波長を測定しました。黒い線(グラフ)が標準を示しています。専門的には、黒体と呼ばれ、9.5 μm ~9.6 μm の放射をピークにしたグラフになっています。

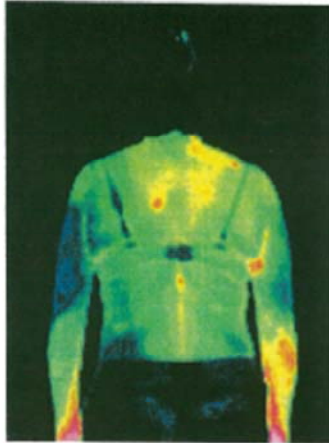
赤い線(グラフ)がシールから放射している電磁波です。平均放射率が91.25%と測定され、育成光線レベルの電磁波を放射していることが確認されます。

「マジスティレアス」の放射率の仮データはもっと高い放射率となっていますが、現在は非公開であることをご了解下さい。参考までに、現在シールは商品化していません。

測定:遠赤外線応用研究会

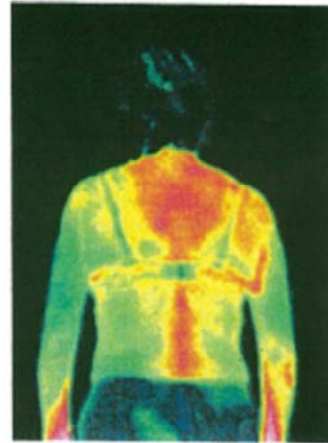
＜サーモグラフィーの測定＞

使用前



標準画像

使用30分後



標準画像

人の体温変化は、サーモグラフィーの画像によって確認することが可能です。青色の部分は低体温の部分を示し、赤色が高温を示します。色の変化をコンピューター解析によって皮膚表面温度としてデジタル化することが可能です。

＜サーモグラフィーによる皮膚表面温度の変化＞

シールを背中中の左右2枚ずつ貼り、30分後の変化を測定しました。サーモグラフィーによる色の変化が確認できます。シールによる温度変化のデジタル化では皮膚表面温度が0.1～0.7℃上昇していました。

「マジェスティレアス」の仮データでは、平均0.5～1.2℃の皮膚表面温度の上昇が確認されています。使用場所、使用方法によって基礎体温変化がどのようになっていくか、今後の研究課題としています。多くのモニター様から、体温の上昇報告を頂いています。(現在は非公開)

人の基礎体温は、常に微妙に変化しています。これは、基礎代謝が常に変化しているからです。一般的には、寝起き(朝)時は代謝活動が低いため、低体温になっています。昼間の活動時の平均体温が36.5℃あれば健康的とされています。普通の体温計は、37℃が赤字で示されています。基礎体温が37℃近くある人は、体内の代謝活動が活性化しており、健康長寿につながる可能性が大きいと考えられます。『マジェスティレアス』の使用によって、代謝活動が活性化し、健康長寿につながることを期待されます。

基礎体温を上げるには、体内の筋肉量を増やす必要があります。体脂肪率の高い人は、代謝活動が不活発になり、基礎体温が低くなってきます。

ダイエットに取り組む時、食事制限を中心に体重を減らすのではなく、運動を取り入れて筋肉量を増やしながらか体重減少に取り組むことが大切です。

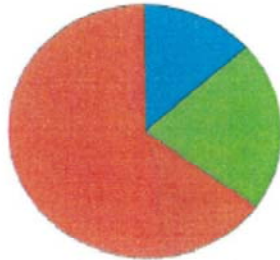
『マジェスティレアス』で基礎体温が上がっても、決して油断しないことです。日常的に運動を取り入れ、筋肉量を減少させないことが重要です。基礎代謝の低下は「万病の元」と受け止め『マジェスティレアス』をより効果的に活用下さい。健康長寿を支える有効な手段になることを願っています。

測定:遠赤外線応用研究会

< α波の出現率 >

使用前

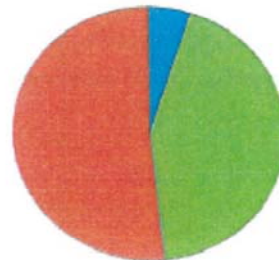
** 優勢脳波出現率 **



	出現率 %	MAX (μV)	平均 (μV)
θ波	13.3	21.0	7.9
α波	21.7	20.0	8.8
β波	65.0	16.0	9.8
エラー	0.0		

使用30分後

** 優勢脳波出現率 **



	出現率 %	MAX (μV)	平均 (μV)
θ波	5.0	22.0	4.8
α波	43.3	28.0	11.4
β波	51.7	21.0	10.7
エラー	0.0		

育成光線が人の体に作用すると、共振現象によって生体電流の流れが活性化します。その時、神経細胞と神経細胞のすき間(シナプス)に存在するセロトニン(体内化学物質)の量が増えることが分かってきました。セロトニンは人の精神活動を安定させることで知られています。その結果、情緒の安定や熟睡につながるということが証明されています。

この時の脳波を測定すると、α波の出現率が高くなっています。現在ではクラシック音楽による低セロトニンの解消など、α波の出現と人、動物、植物の生体反応に関する研究が盛んになってきています。

< α波の出現率 >

育成光線を放射するシールを背中に貼って、α波の出現率を測定しました。使用30分後α波の出現率が高くなっていることが分かります。

「マジェスティアス」に関する仮データ取りでは、α波の出現率がシールよりかなり高く「熟睡できる」という報告が続いています。今後、唾液中のアミラーゼ測定による生体のストレス解消度(国際単位kIU/L)についてデータ取りを行なう予定です。人の精神活動の安定性を科学的に追究して行きます。(健康機器認定審査請求までは非公開にします)

マジスティレラス使用者の感想

症状等	年齢	性別	感想
脳梗塞 心臓病 冷え症	55歳	男性	両足付け根のリンパ線に触れると飛び上がるくらい、激痛が走っていましたが、レアスを貼って約3日で痛みが無くなりました。今も、全く痛くありません。 心臓病で、血液が手足の先まで循環せず、冷え症で靴下を履いて寝ていましたが、レアスを貼り付けたら、初日から足がぼかぼかです。
五十肩	40代	女性	五十肩で腕が水平までしか上がらなかったが、レアスを付けて約3か月後には60度くらいまであがり、半年で水泳ができる状態になりました。
肩こり	40代	男性	十年來の肩凝りで、いろいろ試してみましたが、なかなかよくなりませんでした。レアスを貼って肩凝りが解消しました。
糖尿病	40代	男性	これまで、糖尿病の薬をもらいながら検診を受けていましたが、数値が改善することはありませんでしたが、レアスの貼り付けと、マジスティバランスを飲んで10年間、数値が改善したものが改善しました。
尿酸値 甲状腺	55歳	男性	健康診断で尿酸値と甲状腺機能がB判定でしたが、レアスを貼って(足裏)約9か月で尿酸値、甲状腺の数値が改善し、A判定になりました。
視力改善	70歳	男性	近視で眼鏡をかけていますが、レアスを貼るようになって眼鏡の度が合わなくなりました。今は、レンズの度を落とし眼鏡を作り替えています。
腰痛	70代	男性	長年來の腰痛持ちで、消炎用貼付薬や磁力による商品を試しましたが、よくなりませんでした。レアスを貼り付け、痛みがとれ快適な生活を送っています。
疲れ防止	59歳	男性	足の裏にレアスを貼っていますが、これまで疲れ気味でしたが、今では少々のごことで疲れることが無くなりました。生活が生き生きしています。
喉の痛み	70代	女性	喉が弱く、すぐに喉がはれたり、痛みが出ていましたが、レアスをスカーフに巻いて首に付けると痛みが無くなります。

注意：上記の感想は個人的な感想であり、効果、効能を示すものではありません。